

令和2年4月30日

赤穂市長 様

赤穂市立野外活動センター
赤穂市指定管理者
神姫バスグループ共同事業体
代表団体 株式会社ホープ
代表取締役 佐々木 武文



令和元年度 赤穂市立野外活動センターの事業報告について

赤穂市立野外活動センター指定管理者管理運営基準 4-(2)-イの規定に基づき、令和元年度
管理委託に係る事業について、別紙のとおり報告いたします。



1. 令和元年度 野外活動センター利用状況

区分	件数	利用者数		使用料徴収額		
		実人数	延人数	施設使用料	実費弁償料	
市内	幼児	11 件	286 人	321 人	0	11,740
	小学生	41 件	1,127 人	1,425 人	0	184,610
	中学生	5 件	190 人	212 人	0	20,640
	高校生	6 件	69 人	69 人	0	0
	一般	390 件	4,498 人	4,768 人	0	128,765
	小計	453 件	6,170 人	6,795 人	0	345,755
市外	幼児	6 件	103 人	214 人	29,170	60,920
	小学生	17 件	334 人	822 人	82,200	298,200
	中学生	4 件	158 人	613 人	44,000	396,525
	高校生	0 件	0 人	0 人	4,450	38,790
	一般	252 件	1,175 人	1,688 人	176,660	73,240
	小計	279 件	1,770 人	3,337 人	336,480	867,675
合計	732 件	7,940 人	10,132 人	336,480	1,213,430	

2. 管理業務の利用状況（人数）

		利用者人数・区分(実数)					合計	延人数		合計	件数		合計
		幼児	小学生	中学生	高校生	一般		市内	市外		市内	市外	
4月	令和元年	210	195	81	11	1,856	2,353	2,254	176	2,430	247	175	422
	平成30年	259	304	43	15	2,310	2,931	2,356	657	3,013	376	198	574
	増減	-49	-109	38	-4	-454	-578	-102	-481	-583	-129	-23	-152
5月	令和元年	44	84	98	0	523	749	618	587	1,205	31	13	44
	平成30年	53	82	24	2	514	675	642	153	795	35	5	40
	増減	-9	2	74	-2	9	74	-24	434	410	-4	8	4
6月	令和元年	52	58	1	0	342	453	451	56	507	22	4	26
	平成30年	54	71	0	0	386	511	490	80	570	22	3	25
	増減	-2	-13	1	0	-44	-58	-39	-24	-63	0	1	1
7月	令和元年	39	102	56	59	327	583	528	386	914	25	4	29
	平成30年	26	75	18	1	433	553	407	422	829	21	5	26
	増減	13	27	38	58	-106	30	121	-36	85	4	-1	3
8月	令和元年	63	353	119	16	521	1,072	884	818	1,702	43	14	57
	平成30年	110	356	72	33	454	1,025	912	732	1,644	33	13	46
	増減	-47	-3	47	-17	67	47	-28	86	58	10	1	11
9月	令和元年	31	142	10	0	396	579	498	211	709	17	10	27
	平成30年	39	147	30	6	350	572	613	78	691	16	4	20
	増減	-8	-5	-20	-6	46	7	-115	133	18	1	6	7
上期計	令和元年	439	934	365	86	3,965	5,789	5,233	2,234	7,467	385	220	605
	平成30年	541	1,035	187	57	4,447	6,267	5,420	2,122	7,542	503	228	731
	増減	-102	-101	178	29	-482	-478	-187	112	-75	-118	-8	-126
10月	令和元年	23	104	4	5	231	367	388	131	519	14	11	25
	平成30年	43	107	0	3	382	535	351	414	765	15	6	21
	増減	-20	-3	4	2	-151	-168	37	-283	-246	-1	5	4
11月	令和元年	93	98	7	2	257	457	466	165	631	18	12	30
	平成30年	75	65	27	6	195	368	395	40	435	15	5	20
	増減	18	33	-20	-4	62	89	71	125	196	3	7	10
12月	令和元年	37	35	6	0	188	266	237	103	340	8	9	17
	平成30年	61	88	6	6	164	325	360	71	431	8	4	12
	増減	-24	-53	0	-6	24	-59	-123	32	-91	0	5	5
1月	令和元年	1	50	21	0	349	421	428	6	434	5	2	7
	平成30年	4	68	39	10	386	507	495	46	541	9	2	11
	増減	-3	-18	-18	-10	-37	-86	-67	-40	-107	-4	0	-4
2月	令和元年	40	30	1	0	342	413	229	234	463	10	19	29
	平成30年	58	29	0	1	284	372	307	112	419	11	12	23
	増減	-18	1	1	-1	58	41	-78	122	44	-1	7	6
3月	令和元年	16	64	10	0	137	227	209	69	278	13	6	19
	平成30年	28	236	38	0	370	672	640	195	835	17	6	23
	増減	-12	-172	-28	0	-233	-445	-431	-126	-557	-4	0	-4
下期計	令和元年	210	381	49	7	1,504	2,151	1,957	708	2,665	68	59	127
	平成30年	269	593	110	26	1,781	2,779	2,548	878	3,426	75	35	110
	増減	-59	-212	-61	-19	-277	-628	-591	-170	-761	-7	24	17
合計	令和元年	649	1,315	414	93	5,469	7,940	7,190	2,942	10,132	453	279	732
	平成30年	810	1,628	297	83	6,228	9,046	7,968	3,000	10,968	578	263	841
	増減	-161	-313	117	10	-759	-1,106	-778	-58	-836	-125	16	-109

3. 利用の料金の収入実績

		施設使用料	実費弁償料	小計	自主事業収入	総計
4月	令和元年	22,700	38,875	61,575	161,860	223,435
	平成30年	23,360	22,630	45,990	177,338	223,328
	増減	-660	16,245	15,585	-15,478	107
5月	令和元年	66,860	232,100	298,960	425,846	724,806
	平成30年	19,240	45,070	64,310	187,429	251,739
	増減	47,620	187,030	234,650	238,417	473,067
6月	令和元年	6,480	10,440	16,920	154,728	171,648
	平成30年	13,300	18,130	31,430	103,793	135,223
	増減	-6,820	-7,690	-14,510	50,935	36,425
7月	令和元年	46,510	209,215	255,725	747,324	1,003,049
	平成30年	56,410	168,590	225,000	561,846	786,846
	増減	-9,900	40,625	30,725	185,478	216,203
8月	令和元年	69,620	501,240	570,860	1,657,827	2,228,687
	平成30年	61,660	409,660	471,320	959,798	1,431,118
	増減	7,960	91,580	99,540	698,029	797,569
9月	令和元年	34,470	42,460	76,930	235,810	312,740
	平成30年	10,120	52,620	62,740	71,212	133,952
	増減	24,350	-10,160	14,190	164,598	178,788
上期計	令和元年	246,640	1,034,330	1,280,970	3,383,395	4,664,365
	平成30年	184,090	716,700	900,790	2,061,416	2,962,206
	増減	62,550	317,630	380,180	1,321,979	1,702,159
10月	令和元年	17,470	65,550	83,020	96,322	179,342
	平成30年	47,970	78,010	125,980	59,429	185,409
	増減	-30,500	-12,460	-42,960	36,893	-6,067
11月	令和元年	22,420	60,250	82,670	123,789	206,459
	平成30年	4,990	47,050	52,040	150,257	202,297
	増減	17,430	13,200	30,630	-26,468	4,162
12月	令和元年	11,700	40,660	52,360	32,633	84,993
	平成30年	7,740	79,295	87,035	16,542	103,577
	増減	3,960	-38,635	-34,675	16,091	-18,584
1月	令和元年	600	0	600	34,679	35,279
	平成30年	4,620	20,710	25,330	180,758	206,088
	増減	-4,020	-20,710	-24,730	-146,079	-170,809
2月	令和元年	27,630	670	28,300	175,180	203,480
	平成30年	15,640	20,000	35,640	125,922	161,562
	増減	11,990	-19,330	-7,340	49,258	41,918
3月	令和元年	10,020	11,970	21,990	56,001	77,991
	平成30年	13,790	141,410	155,200	156,260	311,460
	増減	-3,770	-129,440	-133,210	-100,259	-233,469
下期計	令和元年	89,840	179,100	268,940	518,604	787,544
	平成30年	94,750	386,475	481,225	689,168	1,170,393
	増減	-4,910	-207,375	-212,285	-170,564	-382,849
合計	令和元年	336,480	1,213,430	1,549,910	3,901,999	5,451,909
	平成30年	278,840	1,103,175	1,382,015	2,750,584	4,132,599
	増減	57,640	110,255	167,895	1,151,415	1,319,310

4. 管理業務に係る経費の収支状況

令和元年度 収支報告書

<収入>

項目	計画金額	実績金額	備考
指定管理料	8,500,000	8,540,079	
使用料収入等	1,725,000	1,549,910	使用料および実費弁償料
自主事業収入	3,716,790	3,707,430	自主事業収入
その他収入	163,100	194,569	自動販売機手数料
合計	14,104,890	13,991,988	

<支出>

項目	計画金額	実績金額	備考
人件費	給料	4,785,000	賞与・手当含む
	法定福利費	505,000	
	厚生福利費	70,000	
小計	5,360,000	5,403,514	
事務費	消耗品費	652,000	施設消耗品
	図書印刷費	30,000	
	通信運搬費	250,000	電話代・切手代等
	宣伝広告費	150,000	施設広告等
	教育実習費	40,000	
	諸施設使用料	0	パソコン、勤怠管理システム使用料
小計	1,122,000	942,965	
管理費	委託費	550,000	整備・衛生管理・警備業務
	旅費	250,000	
	水道光熱費	845,000	電気・水道・ガス
	修繕費	470,000	
	燃料油脂費	30,000	社用車ガソリン代、作業機器燃料費
	被服費	20,000	
	その他経費	3,385,000	自主事業に係る経費・ごみ処理代・手数料等
	租税公課	554,621	精算消費税等（消費税554,281円含む）
小計	6,104,621	6,071,599	
事業費	保険料	106,000	施設賠償保険等
	運営費	820,379	一般管理費
小計	926,379	1,573,910	
合計	13,513,000	13,991,988	

5. 自主事業にかかる経費の収支状況

<収入>

項目	金額	備考
バーベキュー・牡蠣食材販売事業	511,600	
バーベキュー用具等提供事業	508,500	
バーベキュー用具等物品販売事業	116,750	
自動販売機設置手数料	194,569	
その他事業	2,570,580	合宿プラン、アウトドア活動イベント等
合計	3,901,999	

<支出>

項目	金額	備考
バーベキュー・牡蠣食材販売事業	423,760	商品仕入れ
バーベキュー用具等物品販売事業	79,591	商品仕入れ
その他事業	2,497,911	合宿食事代、イベント実施経費等
合計	3,001,262	

収入	3,901,999
支出	3,001,262
差額	900,737

6. 管理業務等の実施状況

(1) はじめに

令和元年度の主な取り組みは、当施設の『市民の健康づくりに寄与し、青少年の体力向上と情操の涵養をはかり、自然に親しむ野外活動を普及振興する』という設置目的の達成のため、設置目的に合致した事業の実施、全ての利用者の方へ安全な施設環境の提供、施設整備の重要性を考慮した業務を行いました。

また近年急速に多様化している野外活動の利用者ニーズにも対応するため、利便性を考慮した取り組みも実施しました。

(2) 設置目的達成のための事業

①小学生、幼児向けイベントの実施

2年前より継続実施している同年代に人気の高い絵本のストーリーを疑似体験できるイベントを実施しました。

参加者の中には複数年連続で参加していただいた方やイベント告知前に参加の問い合わせをいただいた方がいらっしゃるほど、高評価かつ人気のイベントへと成長しました。

イベント開始3年目ながら当施設の代表的なイベントとなっており、さらに良い評価をいただけるよう、内容を改善したうえで継続実施してまいります。



②親子参加型イベントの実施

小学校中・高学年向けのイベントとして、アウトドア用品を活用し、親子のコミュニケーションを図りながらピザ焼き体験を行うイベントを実施しました。初めての実施でしたが、定員を大きく上回る申し込みをいただき、ニーズの高さを再認識いたしました。



参加者の中には『当施設を始めて利用した』『市内在住だが、このような施設があることを知らなかった』という意見もあり、施設の認知度向上にも寄与する結果となりました。

(3) 安全・快適な施設環境の提供

①施設内芝生広場及び敷地内出入口柵の定期的な補修

芝生広場及びトリム広場には施設周辺に整備された遊歩道へと続く出入口が設けられていますが、一部整備が行われておらず自生した植栽が生い茂っており危険な状態となっており、進入禁止や通行止めの注意喚起のため定期的に柵を補修し、安全管理に努めています。



②談話室ベランダ転落防止ネット設置

近年談話室の利用において乳幼児を伴ったグループ利用が増加しており、気候の良い時期には窓を開放して利用いただいています。

そのような状況の中、ベランダに設置された柵の支柱間は乳幼児が通り抜けられる幅であることから、転落防止・通り抜けができないようネットを設置し、安全管理に努めました。



③赤穂市様と連携した施設改修

・管理棟トイレ改修

施設が開設され40年近く経過し、管理棟内のトイレは和式型が旧態依然として設置されており、赤穂市様に洋式型改修していただいた上でウォシュレット便座を設置しました。



・管理棟内、玄関前へのスロープ設置

談話室を初めとして乳幼児の利用が増加したことを踏まえて、館内外の段差解消のため、スロープ設置を要望しました。

今後施設管理者の取り組みとして、玄関前スロープへの手摺り設置や、管理棟玄関・展望台周辺のスロープ設置を計画しております。



・消防設備改修、漏電修繕

施設が老朽化していることを踏まえ、電気設備点検を実施したところ、館内数か所に漏電箇所を発見し、漏電による施設火災の危険性や館内他設備に及ぼす影響を報告し、消防設備を始め、館内電気配線の修繕を行い、事故の未然防止に取り組みました。

(4) 利用者の利便性向上を図るための取り組み

①施設利用中の排出ゴミ回収

近年のアウトドアブームを受け、幅広い年代の利用者様が来場されるようになり、同時に『ゴミの引き取り』を要望されるケースが増加した背景より、当施設で引き取り・回収するサービスを実施しました。

併せて環境負荷軽減のためゴミの分別や排出量の抑制も呼びかけ、利用者様のマナー向上にも寄与する結果となりました。

②ウッドデッキ簡易屋根設置

平成29年に展望台横に設置したウッドデッキの改修工事として、雨天時や日差しが強い時期にでも利用できるように簡易屋根を設置しました。

簡易屋根を設置したことから展望台と同様に常時使用することができ、4月の設置以降138件の利用があり、ウッドデッキ設置以降最多の利用件数となりました。



(5) 施設の利用状況について

令和元年度の利用傾向として、市内企業等の福利厚生等による利用が多く見受けられました(24件、712名)。その中で年齢層は若年層が多く見受けられ、市内利用者の若年層の施設認知度向上が高まった結果となりました。

市外利用では280件・3,373名のうち、32件・1,337名が兵庫県外からの来場者で、昨年同様(28件、1,329名)に、地域情報誌やインターネットでの情報発信による効果が表れた結果と捉えています。

また赤穂海浜スポーツセンターと連携した合宿プランでは、これまで定期的に利用していた団体に加え、神姫バスグループが管理する他施設での宣伝広告・グループネットワークの活用により京都・岡山から新規利用者の獲得に成功した結果、事業実施以降最多の利用者数となりました(下表参照)。

なお当プラン利用団体には合宿を計画・実施しやすいように、赤穂市様が実施する赤穂市文化・スポーツ合宿等宿泊助制度を積極的に紹介しております。



上：情報誌掲載ページ
下：インターネット配信ページ

●合宿プラン利用状況

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
件数	3	4	8	6	5
利用日数	8	11	18	18	18
利用人数	255	504	635	441	847

(6) 安全対策と緊急時の対応

『安全は全てに優先する』という安全に関する基本理念のもと、施設内の日常的な巡視方法や手順を再確認し、施設・設備の危険箇所や異常個所の発見、及び不審者の有無についてもチェックを行い、速やかな対応処置により危険を排除して安全確保に努めました。

- ・『危機管理マニュアル』を再確認し、災害発生時の対応、避難経路等をスタッフ及び利用者への周知徹底を図っています。
- ・管理棟前手摺の塗装劣化による裂傷を防ぐための再塗装作業や、同箇所転落防止網の交換作業、芝生広場・フレッシュ広場の防護柵の補修等、利用者の安全に配慮した施設管理を行いました。

【安全管理・危機管理に関する基本事項】

事故防止

- ・ 日常の巡回巡視による危険箇所のチェックと改善の実施
- ・ 専門業者による定期点検と施設責任者による最終確認
- ・ 利用者への注意喚起

衛生管理

- ・ 食品衛生責任者による、毎日の厨房管理や食器類の衛生管理
- ・ 消毒液・マスクの常備
- ・ 感染症予防の対応
- ・ スタッフによる巡回中の清掃

(7) 利用者ニーズの把握について

全利用者様に対しアンケート調査を行ったうえ、スタッフによる声掛けや施設ホームページに意見聴取のページを設け、多方面よりニーズの把握に努めました。

(8) 施設運営ルールの再徹底

○施設設置条例・協定書等の理解

利用者に対して施設の利用条件や利用の案内を適切に行うために、本社スタッフも含めて施設設置条例・指定管理者基本協定書を理解するためのミーティングを実施したことに加え、利用案内・接遇に関する職場内研修を実施しました。

(9) 施設維持管理について

令和元年度に実施した主要な維持管理と修理内容は次の通りです。

平成31年4月～令和元年 10月の期間の月1回	業務内容：環境衛生管理業務（害虫駆除薬剤散布） 実施場所：厨房、談話室、事務所、トイレ、倉庫、機械室 実施者：山陽アメニティサービス株式会社
平成31年4月	業務内容：管理棟内トイレ改修工事 実施場所：管理棟2階トイレ 実施者：有限会社瀬戸内工業所
平成31年4月23日	業務内容：施設内柵補修 実施場所：芝生広場西側 実施者：施設職員
平成31年4月23日	業務内容：ウッドデッキ簡易屋根設置 実施場所：展望台横ウッドデッキ 実施者：施設職員
令和元年5月13日	業務内容：消防設備総合点検（法定点検） 実施場所：管理棟内消防設備 実施者：山陽アメニティサービス株式会社
令和元年6月17日、 19日、20日	業務内容：施設内柵補修 実施場所：芝生広場南側 実施者：施設職員
令和元年9月26日	業務内容：転落防止ネット設置 実施場所：管理棟談話室ベランダ 実施者：施設職員
令和元年11月11日	業務内容：電気設備点検 実施場所：管理棟内配電盤及び電源 実施者：山陽アメニティサービス株式会社
令和元年11月11日	業務内容：ボイラー点検 実施場所：管理棟内ボイラー 実施者：山陽アメニティサービス株式会社
令和元年5月13日	業務内容：消防設備点検（任意点検） 実施場所：管理棟内消防設備 実施者：山陽アメニティサービス株式会社
令和元年12月23日	業務内容：施設内柵補修 実施場所：芝生広場南側 実施者：施設職員

令和元年 12 月 23 日	業務内容：施設内柵補修 実施場所：芝生広場南側 実施者：施設職員
令和 2 年 1 月 5 日	業務内容：ウッドデッキ防水・防腐塗装 実施場所：展望台横ウッドデッキ 実施者：施設職員
令和 2 年 2 月 20 日	業務内容：排水管漏水防止コーティング 実施場所：管理棟地下配管 実施者：施設職員

(10) 自主事業について

①物品販売事業（バーベキュー食材・用品提供・ゴミ袋販売）

実施概要：利用者の利便性向上のため、バーベキュー食材や地元産牡蠣の販売（取次）の実施、バーベキュー用品のレンタルを行いました。
今年度よりゴミ袋を販売し、利用中に排出されたゴミを回収する事業を実施し、講評を得ました。

実施期間：平成31年4月1日～令和2年3月31日

販売実績：バーベキュー食材 405,000円
殻付牡蠣 106,600円
用品提供 508,500円
ゴミ袋販売 37,500円（1セット500円 75組利用）

②赤穂元禄・海浜スポーツセンターと連携した合宿プラン

実施概要：当社グループの管理運営する市内スポーツ施設と連携したスポーツ合宿を誘致し、利用促進に努めました。

実施期間：平成31年4月1日～令和2年3月31日

計 18日間 5団体 延847名

③幼児・小学生向けアウトドアイベント

実施概要：幼児・小学校低学年向けのイベントとして、野外活動を通じて参加者間のコミュニケーション機会の提供、協調性、創造性を高めるイベントを実施しました。

ア. 事業名：親子で遊ぼう!!初夏のピザ作り体験

実施日：令和元年6月22日

参加数：15組38名（大人15名、小人23名）

イ. 事業名：おいでよ!!絵本の世界に!

実施日：令和元年11月16日

参加数：34名

④元旦初日の出観覧会

実施概要：例年同様に、兵庫県指定無形民俗文化財の赤穂宝専寺「恵比寿・大黒舞」保存会有志の方による、めでた舞を披露していただきました。
併せて、来場された方に甘酒の無料配布を行いました。

実施日：令和2年1月1日 午前6時30分～午前8時

来場者：約350名

⑤自動販売機設置

実施概要：来場者の利便性向上のため、玄関前に飲料水及びアイスクリームの自動販売機を設置しました。

実施期間：平成31年4月1日～令和2年3月31日

販売実績：194,569円（手数料収入）

1 評価対象施設

公の施設の名称	赤穂市立野外活動センター			
所在地	赤穂市御崎708番地1			
指定管理者	団体名： 神姫バスグループ共同事業体	指定期間	開始日	平成30年4月1日
	所在地： 姫路市花田町一本松字牛塚1-1		終了日	令和3年3月31日
選定方法	公募・非公募		評価実施年	指定期間3年のうち2年目
施設設置目的	市民の健康づくりに寄与し、青少年の体力向上と情操の涵養を図り、自然に親しむ野外活動を普及振興する。			
主な実施事業	アウトドア用品レンタル事業、バーベキュー食材販売事業、アウトドアイベント開催等			

2 利用状況（目標と実績）

成果指標		単位	H30目標	H30実績	R1目標	R1実績	R2目標	R2実績
a	利用件数（市内）	件	510	578	525	452	540	
	利用件数（市外）	件	210	263	215	280	220	
b	実利用者数（市内）	人	7,100	7,360	7,300	6,170	7,500	
	実利用者数（市外）	人	1,500	1,686	1,550	1,770	1,600	
c	延利用者数（市内）	人	8,000	7,968	8,250	6,795	8,500	
	延利用者数（市外）	人	2,500	3,000	2,580	3,337	2,660	
d	施設使用料（市内）	円	0	0	0	0	0	
	施設使用料（市外）	円	180,000	278,840	195,000	336,480	210,000	
e	実費弁償料（市内）	円	650,000	443,425	660,000	345,755	680,000	
	実費弁償料（市外）	円	850,000	659,750	870,000	867,675	890,000	

3 指定管理業務にかかる収支状況

区分		平成30年度決算	R1年度決算	R2年度予算
収入計	A	12,632,599	13,991,988	14,210,880
指定管理料		8,500,000	8,540,079	8,500,000
利用料収入	C	1,382,015	1,549,910	1,780,000
自主事業収入		2,750,584	3,901,999	3,930,880
その他		0	0	0
支出計	B	12,632,599	13,991,988	13,610,000
事業費		10,835,937	10,980,726	10,280,000
内、人件費	D	5,233,952	5,403,514	5,405,000
内、再委託料	E	522,504	527,340	550,000
自主事業費		1,796,662	3,011,262	3,330,000
事業収入	A-B	0	0	600,880
利用料比率	C/A	10.9%	11.1%	12.5%
人件費率	D/B	41.4%	38.6%	39.7%
再委託費比率	E/B	4.1%	3.8%	4.0%

・支出欄「D・E」は代表的な内訳を取り上げているため合計額とはならない。

・事業費は、該当年度及び過年度決算を記入する。また、右欄には、次年度予算を記載する。

補足説明

4 事業評価

評価区分	評価項目	自己評価	所轄評価	
① サービスの履行	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	B	B
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	B	B
		事業計画に即し、計画的に研修等を実施している。	C	B
	第三者への委託	外部委託の内容は、事前に市の承認を受けており適切である。	B	B
		外部委託業者に対して協定書等を遵守しているか。	B	B
	法令順守等	法令・条例に基づき、必要な点検、報告等を行っているか。	B	B
	個人情報保護	個人情報保護に関する法令を遵守しているか。	B	B
		個人情報の漏洩、滅失等の事故防止対策を講じているか。	B	B
	情報公開	情報公開に関する法令や条例に準拠した運用がなされているか。	B	B
		協定書等に従い、情報を適切に管理し、公表している。	B	B
	管理記録	業務日誌等を適切に整備、保管している。	B	B
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	B	B
	連絡調整	協定書等に従い、各種報告書を市に提出している。	B	B
		市との連絡調整を適切に行い、情報の共有が図れている。	B	B
緊急対応	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	B	B	
	緊急時のマニュアルが整備され、定期的に訓練を行っている。	B	B	
	緊急時又は危険予測時、直ちに措置を講じ、市に報告を行った。	B	B	
財務状況	指定管理者の財務状況は、業務の継続が可能な状態である。	B	B	
総括	[業務の実施体制]に関する評価【標準18項目/本施設18項目】	B	B	
② サービスの質	施設管理	協定書等に従い、閉館日、閉館時間等を遵守している。	B	B
		事故防止及び安全確保のために必要な対策を講じている。	B	B
	利用者対応	利用許可、利用料金の徴収、減免、還付等の受付業務を適切に行っている。	B	B
		利用者に対して設備、備品等を適切に提供している。	B	B
	事業運営	言葉使い、態度、服装等接遇が適切である。	B	B
		事業計画に即し、必須事業を実施している。	B	B
		施設の目的に沿った自主事業を実施している。	B	B
	維持管理	事業内容がサービス水準の向上に寄与している。	B	B
		仕様書等に従い、野外活動センターの維持管理を適切に行っている。	B	B
		仕様書等に従い、野外活動センターの施設や設備の保守管理を行っている。	B	B
		備品台帳に基づき、備品を適切に管理している。	B	B
	環境配慮	協定書等に従い、適切に修繕を行っている。	B	B
		省エネルギー、省資源等環境への配慮がなされている。	B	B
	広報活動	事業の開催案内、ホームページの管理等を適切に行っている。	B	B
苦情等対応	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	B	B	
	要望、苦情等を整理し、遅延なく市に報告している。	B	B	
事業評価	利用者アンケート調査を実施し、その結果を利用者等に公表している。	B	B	
	利用者の利便性向上を図るため、自己評価を実施し、利用者等に公表している。	B	B	
提案事項	指定管理者の提案事項については、市と協議し、提案のとおり実施している。	B	B	
利用状況	利用者数、稼働率等は、目標に対し妥当な水準である。	B	B	
総括	「業務の内容・水準」に関する評価【標準20項目/本施設20項目】	B	B	
③ 安定性	経理事務	専用の口座等を備え適切に経理事務を行っている。	B	B
	予算執行	収支予算書の範囲内で適正に予算を執行している。	B	B
	経費縮減	経費が縮減され、又は縮減に向けた努力を行っている。	B	B
	収支状況	収支予算書と比較して、収支状況は妥当である。	B	B
総括	「経費の収支等」に関する評価【標準4項目/本施設4項目】	B	B	

所見 <small>(成果・課題等)</small>	【自己評価】 施設設置目的達成のための事業を小学高学年・成人まで展開し、参加者からは高評価をいただきました。 施設利用においては、地域情報誌・インターネットを活用し県外利用者を一定数集客し、海浜スポーツセンターと連携した合宿利用は、事業実施後最多の利用者数となりました。 施設管理においては、安全性・快適性を念頭に置き、業務にあたりました。		
	【所管評価】 施設の利用状況として、新型コロナウイルスの影響もあり、昨年度比減となったが、指定管理者として円滑な管理運営と事業推進に努められたと評価できる。 最終年度として、自主事業などのさらなる充実を図り、施設のPR及び神姫バスとの連携事業などの強化を希望する。		
前年評価	B	総合評価	B

*** 評価基準**

自己評価・所管評価	A	優良	基協定書、仕様書、事業計画書等を遵守し、要求水準より優れている。
	B	良好	協定書等を遵守し、要求水準を概ね満たしている。
	C	要改善	協定書等に定める要求水準を下まわっており、改善が必要と認められる。
総括	A	優良	評価基準項目が全てB以上であり、かつAが過半数である。
	B	良好	優良、要改善以外の評価
	C	要改善	評価基準にCが1割以上含まれる。
総合評価	A	優良	自己評価、所轄評価の「総括」にCが含まれず、かつAが過半数以上ある。
	B	良好	優良、要改善以外の評価
	C	要改善	自己評価、所轄評価の「総括」にCが2つ以上含まれる。